

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
フューチャー・アース国内連携分科会(第1回)
議事録

日時: 平成30年5月17日(木)15:30~17:00

会場: 日本学術会議 5-C(1)会議室

出席者:

委員: 池辺靖、江守正多、大西隆(スカイプ参加)、沖大幹、春日文字、蟹江憲史、黒田かをり、近藤昭彦、武内和彦、谷口真人、花木啓祐、長谷川雅世、松浦正浩、安成哲三、山本百合子

陪席: 堅達京子、ハインマレー、橋本友希、堀江里衣子

事務局: 小林企画課長、糸川参事官ほか

以上、敬称略

議事概要:

1) 役員の選出

・安成委員より、武内委員に委員長をお願いしたいとの発言があり、以降の進行は武内委員が行った。

・委員長の指名により、黒田委員が副委員長、蟹江委員が幹事として選出され承認された。議事要旨の記録は参考資料「委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン」に基づいて蟹江幹事が行うこととした。また、8週間以内に次の委員会が開かれないことから各委員の議事録確認はメールにて行い、内容の最終承認については委員長に一任されることが承認された。

2) FE 国内連携分科会設置とその経緯について

・武内委員長より、設立の経緯が説明された。すなわち、フューチャー・アース(以下 FE)日本委員会およびその運営委員会が設立された際定められた規約第9条により、日本委員会の運営を担う参加機関を幹事機関と呼び、日本委員会の事務局を幹事機関に置くことが決定した。また、内規案では、幹事機関は日本学術会議(日学)が担うとしたうえで、幹事機関は運営委員会で決定するとした。

ところが、日学事務局より、FE 日本委員会(および運営委員会)の事務業務に日学会員は関与できるが、事務局職員は制度上関与できないとの説明が寄せられた。その理由は、FE 日本委員会(運営委員会)という独立組織になった以上、その事務業務に日学事務局の職員を関与させることは、国家公務員の服務規程違反になり、処分の対象となるということであった。

これは、形式だけの問題ではなく、日学内の組織(委員会、分科会等)を用いて実質的に

FE 日本委員会の事務を行わせる場合も同様ということであった。その後、日学会長、事務局長を交えた確認を行い、「FE の推進と連携に関する委員会」の下に FE 国内連携分科会(本分科会)を設置し、その分科会の審議に関する庶務を日学事務局が行うこととした。その際、分科会はあくまでフューチャー・アースの推進を図りながら、これを通じ、FE 日本委員会の運営に関する事項の整理と検討を行うことを目的とし、FE 日本委員会自体の運営とは区別することが確認された。

なお、本分科会には、FE 日本委員会の運営に関する事項の整理と検討を行うため、FE 日本委員会の運営委員会委員を加えることとなった。

2018 年 1 月 31 日、「FE の推進と連携に関する委員会」が開催され、委員会の下に FE 国内連携分科会を設置することが了解され、3 月 30 日開催予定の幹事会にその旨提案された。

FE 日本委員会の運営に関する整理と検討を行う、当委員会の目的が確認された。

FE 日本委員会運営委員会の当初の計画では、学と民から各 1 名の共同委員長を選出することになっていた。しかし、日学の規則では委員長は 1 名に限定されているため、本分科会は武内委員長および黒田副委員長の体制で進めることが確認された。

- ・配布資料 2 の所属・職名について 2 名の委員より変更依頼があった。武内委員長は「公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長 東京大学特任教授」、沖委員は「東京大学サステイナビリティ学連携研究機構教授」に変更することで、事務局に合意を得た。

- ・武内委員長より、資料 1 に添って本分科会の設置目的、審議事項等についての説明があった。また、資料 2 の通り特任連携会員 5 名を加えたのは、社会との連携を強く考慮した上での判断である、との説明があった。

3) FE 日本委員会のあり方について

- ・武内委員長より、FE 日本委員会の事務局運営について検討する必要があるとの問題提起があった。前回 FE 日本委員会の準備は春日委員の Future Earth 日本ハブ事務局で担当した。今回は蟹江委員の慶應大学が担当し、当面は慶應で引き受けて頂きたいものの、予算的な裏付けをどうするかという問題が残っている。

- ・蟹江委員より、本日開催予定の FE 日本委員会では新規加盟組織等からの活動説明があるとの発言があった。新規加盟組織等は、中部大学とグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、および、既存の組織を改組してフューチャー・アース研究センターを設立した名古屋大学である。

- ・江守委員より、Future Earth の Science Committee と Engagement Committee は Advisory Committee に統一されたが、Engagement Committee の時に作られた Future Earth Engagement Principles and Practice は今後も引き継いで使われていくのか、それを翻訳する等して国内に使う活動に分科会ではどうか、という提案があった。

- ・武内委員長より、日本委員会は年 2 回くらいの開催を考えており、1 回は分科会と同日程、も

う1回はイベントの日に合わせて行いたいとの提案があった。

- ・蟹江委員より、Future Earth の活動を広げ認知度を高めるためには、エンドースメント活動等を日本で独自にやってもよいのではないか。メールでの承認プロセスを確立する等が考えられる。例えばドイツの FE は独自の活動をどんどんやっている。運営資金をクラウドファンディングで募ってもよいのではないか、との意見があった。
- ・山本委員より、今年の 3 月に千葉大学とイオン株式会社で包括的連携協定の締結を発表し、シンポジウムを開催した。まずは委員会所属組織間での連携を深めていくのがよいのではないか、との意見があった。
- ・花木委員より、上から目線のエンドースではなく、相互に活動を紹介できるような関係において後援等ができるよいか、との意見があった。
- ・黒田委員より、共催、協力、後援に関する簡単なガイドラインがあると承認の判断がしやすい、との意見があった。
- ・春日委員より、日本には既にユニークなエンゲージメントがあるものの、相互に認識する機会がない。まずは日本委員会の HP を立ち上げる等して、関係組織の取り組みを発表しあってはどうか、との意見があった。また、エンドースには FE 全体にゆるい規約があり、資金援助を伴わない後援の場合、各国のコミッティが承認できる、と説明があった。

・蟹江委員より、研究プロジェクトへのエンドース可否について質問があり、春日委員より、Future Earth 全体としての仕組みはないが、例外的にリージョン研究としてエンドースしたものはあるとの説明があった。

4) 日本における FE の活動状況について(日本ハブ、アジア事務局)

- ・春日委員より、資料3に添って説明があった。
- ・ハイン マレーフューチャー・アース・アジア地域センター事務局長(オブザーバー)より、追加資料1に添って説明があった。
- ・黒田委員より、アジア地域センターが主催した1月シンポジウムの資料や報告書は公開されているのか、との質問があった。ハイン事務局長より、来週にも WEB に詳細な報告書がアップされるとの説明があった。
- ・武内委員長より、地域センターはなくなる傾向にあると聞いたが、Future Earth 事務局としてはどのように聞いているのか、との質問があった。春日委員より以下のとおり回答があった。最初からセンターは4つ。アジア、中東・北アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ。ヨーロッパは基幹を務めていた大学が予算事情でクローズしたため、先行してあったヨーロッパアライアンスに集約された。ラテンアメリカは IAI が地域センターをホストしていたが政府間組織だったため NGO である FE の地域センターを引き受けるのは規則上不適切となり、事務局ではなく、サポートという形をとることになった。そのためセンター機能はクローズした。グローバル事務局としてはそれらの新しい形で連携・推進していく方針。中東・北アフリカはサブ・リー

ジョンとしてエジプト・アレクサンドリアに地域オフィスを開設準備中。以南のアフリカはルワンダと南アフリカにオフィスを開設準備中。

5)その他

・武内委員長より、現在 15 名が委員であり、定員いっぱいだが、名古屋大学竹中先生(名大 FE センター副センター長)を追加したいので、親委員会で委員人数の増員を了承してもらいたいとの要望が出され、その方向で検討することとなった。